

経営比較分析表（平成29年度決算）

京都府 南山城村

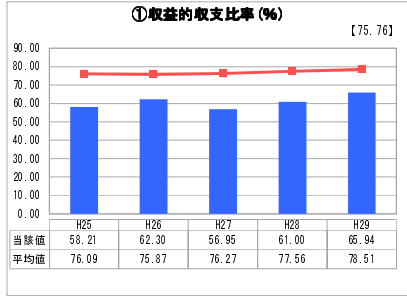
| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|------------|--------------|---------|---------------------------------|--------|
| 法非適用 | 水道事業 | 簡易水道事業 | D3 | 非設置 |
| 資金不足比率 (%) | 自己資本構成比率 (%) | 普及率 (%) | 1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円) | |
| - | 該当数値なし | 90.24 | 4,471 | |

| 人口 (人) | 面積 (km ²) | 人口密度 (人/km ²) |
|------------|---------------------------|-----------------------------|
| 2,819 | 64.11 | 43.97 |
| 現在給水人口 (人) | 給水区域面積 (km ²) | 給水人口密度 (人/km ²) |
| 2,532 | 6.23 | 406.42 |

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- [] 平成29年度全国平均

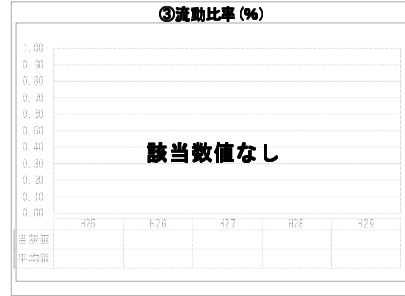
1. 経営の健全性・効率性



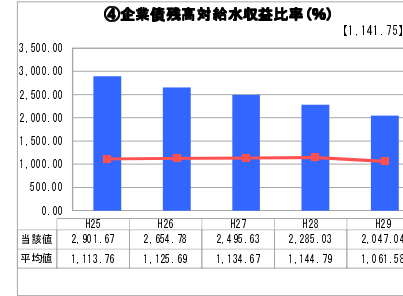
「単年度の収支」



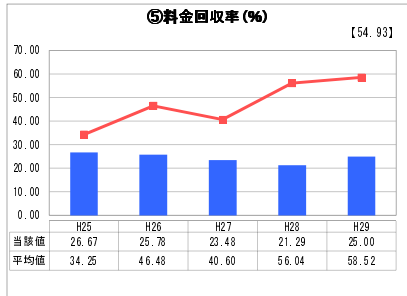
「累積欠損」



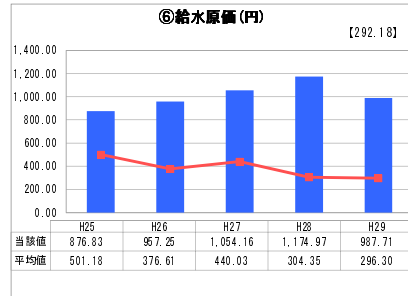
「支払能力」



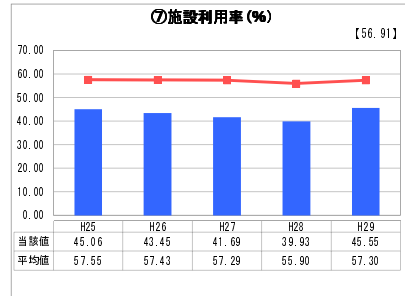
「債務残高」



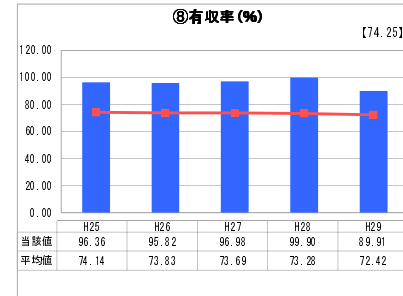
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

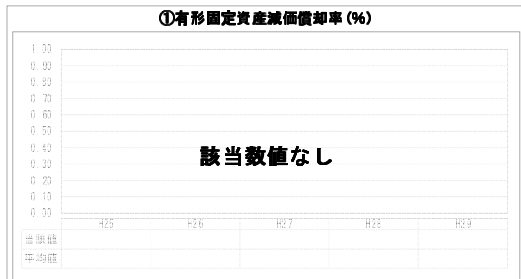


「施設の効率性」

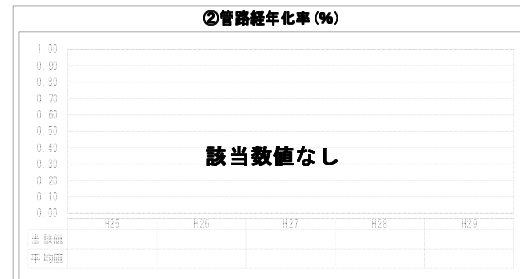


「供給した配水量の効率性」

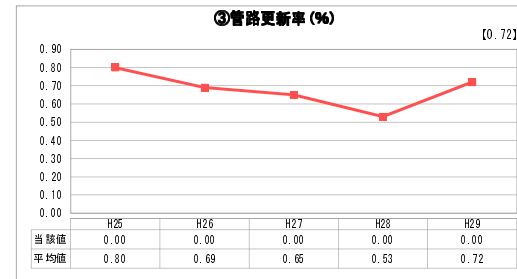
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

南山城村におきましては、給水人口の減少による水道料金の収入の減少が見込まれ、給水収入のみでは赤字であり、一般会計からの繰入金で補填しているのが現状であります。

また、集落が山間部に点在するため、給水では配水距離が必然的に長くなるを得ず、且つ、高低差も激しく加圧ポンプ等の施設を多く配置せざるを得ず、他団体と比べて給水原価が高額となっております。

ただ、平成17年～平成23年の中央簡易水道事業（統合事業）における償還金額のピークが過ぎたため、収益的収支比率や企業債残高対給水収益比率が改善に向かう兆しがあります。

しかしながら、料金回収率が他団体に比べて非常に低く、経営の健全性の確保から見ても回収率の向上に努める必要があります。

2. 老朽化の状況について

管路更新が済んでいる中央簡易水道に対して、高尾簡易水道は財政的な事情により設備・管路更新が進んでいません。

高尾簡易水道は、稼働後35年以上が経過しており、また法定耐用年数を超える施設等が出てくる中、特に管路につきましては、漏水等が多発している状況にあります。

今後は、浄水場及び管路の設備更新を計画的に進めていく必要があります。

全体総括

給水人口の減少が今後も見込まれる中、水道事業の継続のため、既存の施設のダウンサイジング等より適切な施設規模へと改善を行い、収益率等の向上を図っていく必要があります。

高尾簡易水道については、老朽化が進行しているため、浄水場や管路を含めた計画的な設備更新が必要となっています。

また、村内における未給水地域の解消に向けての計画も喫緊の課題となっています。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。